

Before 1944

“ タカラウシムチ（宝書物）と総称^{そうしょう}されていた文書群の中
 でも、『中山世譜』はとくに黒塗銀箔稜螺鈿縁飾りの収納箱（か
 ぶせ蓋^{ふた}の表に銀箔で「中山世譜」と書かれていた）に納め、
 おそばしうざ^{お そば し う ざ} せいし^{せい し} しつむしつ^{し つ む し つ} ちがいだな^{ち が い だ な}
 御側仕御座（世子の執務室）内の違棚の上に置かれていた。

『中山世鑑』は、朱塗沈金牡丹紋合口蓋の収納箱（約
 37×27×15 センチメートル）に納められ、世子^{いんばこ}の印箱と並
 べて同じ違棚に置かれていた。

沖縄戦の際、『中山世鑑』『中山世譜』『おもろさうし』は
 収納箱に入れたまま中城御殿の御花園殿である上之御殿の石
 垣下^{ふかみぞ}の深溝^{かく}に隠してあった。それを米軍が戦利品として持ち
 去ったが、戦後返還され、現在は県立博物館に蔵^{ぞう}されている。

琉球の正史『球陽』は殿中に蔵されていると関係者の間
 で言われていたが、明確な場所は不明で見たこともない。 ”

中山世鑑・中山世譜が戦前から返還される
までのできごとをおきた順に並べてみよう。

※正しい順番に並べるとメッセージができます。

After 1945

- ツ) 州立博物館に売られそうになる
- ヨ) もぬけの殻から なかくすくどうんの中城御殿 (1945 年 8 月)
- ナ) 米軍が戦利品せん り ひんとして中城御殿から持ち出す (1945 年 5-7 月頃)
- ヲ) デービス軍曹、西里さんから話を聞く (1949 年)
- マ) ペルリ来琉百年祭にあわせて『おもろさうし』等の文化財が帰ってきた。(1953 年 5 月)
- テ) デービス軍曹、琉球古文化財べいこくむしょうについて米国務省に訴える
- ガ) アメリカで琉球古文化財しゅうしゅう蒐集活動はじまる (1951 年 11 月頃)
- ワ) 米軍沖縄本島上陸 (1945 年 4 月)
- ヘ) 10・10 空襲くうしゅう (1944 年 10 月)
- ス) 真栄平房敬ま え ひらぼうけい、文化財の搜索願そうさくねがいを出す (1953 年 6 月)
- ネ) デービス軍曹、故郷こきょうへ帰る (1951 年 11 月)
- イ) 書物、中城御殿の石垣下の深溝に隠される (1945 年 3 月頃)



へ					

←	-----				
ス			ツ		